

## 第7回府中市学校教育プラン検討協議会会議録（要旨）

- 1 開催日時 令和3年9月15日（水） 午後7時～午後8時
- 2 開催場所 府中市立教育センター会議室
- 3 出席者 11名（50音順、敬称略）

委員 赤 岩 直	委員 上 村 貴 子
委員 菊 山 直 幸	委員 倉 林 徹
委員 小 林 陽 子	委員 関 修 一
委員 関 根 滋	委員 高 橋 純
委員 田 中 洋 一	委員 山 口 真 佐 子
委員 吉 田 修	
- 4 欠席者 1名（敬称略）

委員 中 村 圭 佑
------------
- 5 出席説明員等

教育部次長兼教育総務課長	矢ヶ崎 幸 夫
教育部副参事兼指導室長	並 木 茂 男
教育総務課長補佐	矢 島 彩 子
学校施設課長	町 井 香
学校施設課長補佐	遠 藤 勝 久
学務保健課長	佐 伯 富 丈
給食センター所長	谷 本 耕 一
給食センター副所長	大 木 忠 厚
指導室主幹	目 黒 昌 大
統括指導主事	菅 原 尚 志
文化生涯学習課長	二 村 善 久
教育総務課係長	元 田 佳 奈 子
教育総務課主任	徳 永 昭 子
教育総務課事務職員	森 菜 摘
- 6 傍聴者 なし
- 7 議事日程
  - (1) 第6回会議録（要旨）の確認
  - (2) 協議
    - ア 素案について
  - (3) その他
    - ア 次回開催について

## ■会議録（要旨）

○会 長 ただいまから、第7回府中市学校教育プラン検討協議会を始めます。今回も緊急事態宣言中の開催となります。円滑な会議運営にご協力の程お願いいたします。予定時間は最大で8時半までを考えております。

まず事務局から、本日の委員の出席状況を報告してください。

○事務局 中村委員からご欠席とのご連絡をいただいておりますが、委員12名中11名の方にご出席をいただいております、半数以上の方にご出席いただいているため、本日の協議会は有効に成立しております。

○会 長 本日の会議は有効に成立しているとの報告がありました。

続いて、事務局から本日の傍聴希望の状況を報告してください。

○事務局 昨日までに申出がなく、傍聴希望者はなしでございます。

○会 長 本日は、傍聴希望者はなしとの報告でした。それでは、本日の配付資料について、事務局から説明をしてください。

（事務局から資料の説明）

○会 長 お手元で不足している資料はございませんか。よろしいですか。

続きまして、次第2「確認事項」として、前回の会議録の確認についてです。事前に、委員の方にお送りいただいております、ご自分のところを中心に見ていただいているかと思いますが、事務局から説明をお願いします。

○事務局 前日までにご意見や修正点等のご連絡はございませんでした。

○会 長 前日までにご連絡はなかったとのことですが、今ここでご発言ありましたら、お願いします。よろしいですか。

それでは、第6回協議会の会議録の内容を確定したいと思います。事務局は、速やかに公開手続をお願いいたします。

次に、次第3の「協議」に移ります。「素案について」でございます。事務局から説明をしてください。

（事務局から資料7-2、7-3に基づき説明）

○会 長 今事務局から資料の説明がありました。事前にお読みいただいている前提で、ざっくりとした説明でしたが、今ご説明がありましたように、今回が素案について我々が語れる最後の会議となります。次回が答申となりますので、ここで細かいことでもご意見を出していただきたいと思います。協議をする順番として、施策ごとにしたいと思います。18ページからの施策1のところ、ご質問やご意見がありましたら、お受けしたいと思います。

○委 員 施策の前のページでもよろしいでしょうか。

○会 長 施策の前ですね。では、お願いします。

○委 員 前は欠席させていただき、申し訳ありませんでした。今回、送っていただいた素案を見て、素晴らしくまとまっているなど第一の感想です。数点気になったところがあります。

13ページ「4 ICT活用の推進」の6行目「一人ひとり」がここだけ表記が違っています。あとは「一人一人」になっています。

12ページ「1 人間尊重の精神を基調」の6行目「また、環境により教育機会を奪われないように」とあるところの「環境」が、教育環境なのか家庭環境なのか、細かい指定はいいのかなと読んでいて気になったところです。もし、皆様の審議が終わって、これでいいということでしたら、特に気にならないですが、以上が施策に入る前に気になったところです。

○会 長 それでは施策に入る前のところで、「一人ひとり」は文言ですので、統一していただくということによろしいですね。事務局の方で統一を図っていましたが、おそらく漏れだと思えます。よろしくお願いします。

2つ目のご質問の「環境により教育機会を奪われないように」のところの「環境」ですが、もう少し文言を足した方がいいでしょうか。事務局お願いします。

○事務局 「環境」でございますが、様々な環境を想定しているところです。家庭環境や、子供の置かれている環境ですが、ご助言いただけたらと思うのですが、例えば「家庭環境など」と何か事例を入れた方がよければ、事例を挙げたいと思うのですが、ご質問いただいたところで大変恐縮ですが、ご助言いただけたらと思えます。

○会 長 委員、いかがですか。

○委 員 私も細かいことはわかりませんが、例えば「子供を取り巻く様々な環境が」と一言入れたら、全てが網羅されるのかなと思いました。

○会 長 国語の立場から申しあげますと、環境を原因にするときに、「環境」はいい場合も悪い場合も含めるので、「環境の条件等により」や「環境の悪化により」など言葉が入らないと、言葉としては飛んでいるかなと思えます。

今のお話しですと、家庭には限定しないということですので、「環境の条件により教育機会を奪われないように」ということで、通じるのではないかと思います。

○委 員 環境という言葉が、ここに「環境により」とあり、次の行に「環境整備」という言葉があり、次の2のところには、「学ぶ環境」と「教育環境」とあり、いろいろな「環境」がこの時点で出てきていますので、全体的に表記の適性化を図っていく必要があるのではないかとということが一点です。

次に、ここは「セーフティネットの構築や環境整備を進めます」と後半につながりますので、「奪われないように」と若干否定的に書かれるよりも、むしろ「学習の機会が全ての子供に行きわたるように」というような、プラスアルファの書きの方がポジティブに見えるのではないかと気がいたします。

○会 長 ありがとうございます。前回もっとマイナスの表現が多かったのです

が、今回プラスな表現にと改めて言われたのですが、今委員のご指摘がいいのかなど私も思います。例えば「全ての子供が教育機会を保障されるように」という言い方をすれば、環境という言い方もしなくていいのかなと思います。こういった形でまとめていただけたらと思います。よろしいですか。

施策1より前のところで、他に何かございますか。

それでは、また最後にお伺いしたいと思います。18ページから32ページまでの施策1にいきたいと思います。かなり皆様からご意見いただいたことを反映していただいていると思いますが、何かご質問やご意見ございますか。

○委員 私も前回お休みをしまして、申し訳ございませんでした。

26ページの「1-2 生命を大切に作る心や他人を思いやる心等を育む教育の充実」のところの、2番目に人権教育の推進についてがあるのですが、順序性からいくと、一番初めにそれを置くと広義になっていいのではないのではないかと気がします。内容ではなく、道徳が前なのか人権教育が前なのかということです。

○会長 事務局いかがですか。その辺りに何かこだわりはありますか。

○事務局 この順番にしておりますのは、道徳教育の推進は子供たちへの指導内容を表したいと思っており、人権教育の推進の中では、教員の人権感覚を高めるという内容もあることから、作りとしては子供を先に、それから教員という順番で考えて、この順番にしております。

○委員 意図がきちんとあれば問題ないと思います。あと、今子供が先に来ていたということでしたが、それぞれの項目で、子供の指導に関わる部分が一番始めになっていないと整合性が取れなくなってしまうと思うので、その辺りの点検が必要かなと思いました。

○会長 道徳も一つの教科の道徳ということではなくということですが、道徳教育と人権教育のどちらが大きいかということは、かなり大きいことだと思います。何かございますか。

○委員 委員から言われてなるほどと感じたところですが、確かに言われれば人権教育の方がより大きいテーマかなと思いますので、事務局の方でこだわりがなければ、順番を入れ替えた方が、座りがいいかなと感じました。

○会長 他いかがでしょうか。私も人権の方が大きいかなと感じてはいたのですが、事務局から大きい順に並べたわけではないとお話しがあつてわかったのですが、人権を上にしていただく方が、座りがいいといたしますので、それでよろしいですか。では、そのようによろしくお願いします。

他によろしいですか。

○副会長 29ページの「2-2 交流・協働学習の実施」のところですが、「持続可能な社会づくりに向けた」というよりは、「共生社会の形成に向けた」とした方が、この後の文章や示している内容を具体的に反映した言い方になるのではないかと考えます。「態度、優しさや思いやりなどの人間性等を育む観点から」とな

りますと、通常学級の子供たちを対象に書かれているように見えるのですが、特別支援学級の子供たちにとっても、こういう協働学習の実施というのは、社会性を育む観点や当事者の能力を育む観点から非常に重要なものだと思いますので、双方の立場からこれは重要であると考えていただいた方がいいのではないかと思います。「共生社会の形成に向けて、他者を思いやる態度」などのこの辺りの言葉を整理していただいて、人間性等を育む観点、また特別支援学級の子供たちにとっても社会性を育む観点からというように両方の子供たちにとって書かれている方がいいと思いました。

○会 長 今のご指摘はいかがでしょうか。

○事務局 今副会長からご指摘のとおり、健常者のお子さんの観点から書いているということをご指摘のとおりかと思っておりますので、協働学習の推進は共に意義あるものであるということがわかるように、少し表現を加えるように修正したいと思います。

○会 長 よろしく申し上げます。他にいかがでしょうか。

○委 員 3点発言させてください。

まず、22ページの4行目「前年度と比べ」と出てくるのですが、令和何年度は前年度と比べなど、言葉を入れないと前年度の基準がないと感じました。そのページのグラフですが、上2つは特別支援学級という表記で、下2つは特別支援教室という表記となっており、これは一般的にこれで通じることかということをお教えください。

2つ目です。27ページ「1-3 健康で安全に生活する力を育む教育」の2つ目の四角です。「本市を活動拠点とするトップチーム」とあり、府中の方が読んだらすぐにわかるかと思っておりますが、「様々な競技のトップチームが」など、何か言葉が付いた方が、スポーツのことだとわかりやすいのかなと読みました。

それから、31ページ「4 成果指標」のところですが、現状値と目標値が書いてあります。学力調査等で無回答者の児童・生徒数は気にしないでいいのかなと私は気になっています。1つの指標として入ることなのかどうかをお教えいただけたらと思います。

○会 長 では、1点ずつ確認していきたいと思います。

まず、22ページの「前年度と比べ」という表現は、ご指摘のように10年間使うプランでは、どの年度のことか不明となりますので、付け加えていただくということでよろしいでしょうか。

次の特別支援学級と教室の使い分けですが、事務局いかがでしょうか。

○事務局 ご指摘のとおり、特別支援教室が全校に設置されてまだ浅いところがありますので、特別支援教室が通級指導を行っているところであるといった説明を加える方が、プランを読む方にとってわかりやすいと思っておりますので、何か説明を付け加えたいと思います。

○会 長 一般の市民の方が読むということを考えますと、これでは区別がつか

ないかなと思いますので、表現を工夫してください。

27ページのトップチームのところですが、府中市に関わっているとラグビー等が浮かびますが、「様々な競技のトップチーム」というお話がありました、いかがでしょうか。

○事務局 この点についても、一般の市民の方や市外の方がご覧になるということ踏まえ、「様々な競技」か、ラグビーなどの事例を入れるなど修正をしたいと思います。

○会長 最後が31ページですが、無回答についてです。PISA調査以来、日本の子供たちの課題の一つと言われていますが、そのことについて触れなくていいかというご質問ですが、事務局いかがですか。

○事務局 全国学力・学習状況調査の調査結果の項目で、無回答の状況が確認できるかどうかをもう一度確認した上で、成果指標として加える必要があるかどうか検討していきたいと思います。

○会長 データが公表されていないため、資料を確認していただいて、そういう数字があれば出した方がいいのではないかというご意見でした。他にいかがでしょうか。

○委員 26ページの「環境に対する意識を育む取組の推進」の1行目ですが、「自然を大切にし、環境の保全に」とあります。この施策で環境という言葉がすぐ出てきていて、「自然を大切にし、」というところからつながっていると言われれば問題ないですが、「地球環境」など、教育環境とは違うということで具体的な言葉を入れた方がいいのではと思いました。タイトルではなく、1行目の部分です。

○会長 事務局いかがでしょうか。

○事務局 ここでは自然環境が中心となりますが、環境という言葉の使い方を、教育プラン全体を通じて確認し、適切なものになるよう修正したいと思います。

○会長 先ほど、委員からもご指摘ありました「環境」についてです。これは、私の個人的な考えですが、タイトルに「自然環境」と入れ、文章は「自然を大切にし、」からつながるのでこのままで大丈夫はないかと思います。ご検討お願いします。

他にございますでしょうか。

○委員 30ページの主な取組「3-1 教員の指導力向上」の1番初めの文章がわかりづらいなと思いました。1つは、「教員の持続的な成長には、経験を振り返ることを基礎とした学びと、他者との対話から得られる学びが重要となることから」から始まり、最後は「支援していきます」となっており、教育委員会が支援していきますとなっています。学びが重要になっているから具体的に何とかが見えづらいなと思います。

もう一つ、持続的な成長には、教員の意識変化や意欲が非常に大きくなってくると思うのですが、そういう文言が入ったほうがいいのではないかと思います。

○会 長 他の委員の方、いかがでしょうか。まず、わかりにくいのではないかと、というご意見と、持続的な成長にはこれが必要であると限定してしまっていると、他に重要なものがあるのではないかとというご意見ですが、いかがでしょうか。

○委 員 この文言は中教審の文言を採用していたと思うので、今後記述が変わるかもしれないので、改めて見直すということだと思います。この記述がでてきた背景で言えば、意欲的ということは大前提とし、意欲的に取り組むには、これまでのような教育センターでみんなが集まって、話を一方的に聞くというよりは、継続的・持続的に校内等で経験を振り返ったり、他者との対話の中で成長していこうという新しい趣旨が盛り込まれているものだと思います。なので、意欲ということも前提となっているのですが、記述がないということであれば、何等か書くことはあり得るかもしれませんが、当然そういう職業についているのであれば、学ぶことには意欲があるだろうという前提で、この文言は調整がされていたと記憶しています。

○会 長 ありがとうございます。今委員がおっしゃったことが非常にわかりやすかったのですが、3-1は後ろのまとめが、校内研修や市教委の主催する研修会の充実とともに、教員の自主的・自発的な研修を支援していきますと、両方併記していて研修が多様化という形となっているため、最初の2行と合わなくなっています。最初の2行は、委員のおっしゃったように、教員の自主的・自発的な研修の大切さが書かれているかと思うのですが、委員いかがですか。

○委 員 これまでの記述との調整が必要かと思っております。

○会 長 多様な研修が必要だという文章になればいいと思いますので、少し直すなど、検討をお願いします。

他にございますか。

○委 員 成果指標のことですが、一般的に見てこれらが成果指標になりますし、特に一番目の成果指標は市民の方にとって一番関心が高いところだと思っていますので、これは十分必要だろうと思っています。ただ、全国学力・学習状況調査の本質的な意味で考えますと、二番目のCとDに分類される下位層の割合は、義務教育の性質から考えても極めて重要で、先ほど無回答を調べるというお話とも強くリンクしていると思います。職業としてこのことに取り組むなら、二番目はかなり重要だと思っています。ヒストグラムで見れば平均値を上げるということは、CとDを減らすということにかかっていますし、そういうテクニカルな意味ではなかったとしても、Dに分類される子は、その後自分で書物を読んでスキルを身につけるところまでたどり着かないタイプの学力と言われているので、DやCを減らしていくということは、非常に重要だと思っています。無回答ということの指標がないのであれば、このCとDがその代わりになる可能性があると思います。

もう一つ、できればという意見ですが、学校質問紙や児童・生徒質問紙があるかと思っています。例年、項目が微妙に変わっていくことはありますが、その中に「地

域の行事に参加して」という文言は、府中への郷土愛と少し連動している項目かもしれませんが、協働で学ぶなど、ここに書かれている取組とフィットする質問紙もあると思いますので、もともと天井効果のようになっていて調べるまでもない項目もたくさんありますが、もしも課題が見られるような項目があるようでしたら、必要に応じて、学校質問紙や児童・生徒質問紙の項目も成果指標に入れてみたらどうかと思います。

○会 長 結構大事なポイントかと思いますが、その辺りは検討していただければと思います。また、先ほどの順番の話ではないですが、どちらを先に書いた方がいいかという話もあるかと思いますが。義務教育の目的で言えば、CやDの子を減らさなければいけないということもあるかと思いますが、そこも検討していただけたらと思います。

施策1が、一番ボリュームがありますが、他にございますか。よろしいですか。

それでは、施策2にいきたいと思います。33ページから38ページまでで、ご意見やご質問がありましたらお願いいたします。

○委 員 37ページ「2-2 奨学金制度の実施」の文言だけですが、「勉強意欲」という言葉を使っているのですが、一般的には学習意欲かという気がします。特別に何か意味を持って使われていれば構わないです。

○会 長 事務局が何かこだわりをもって使っているのかお答えいただけますか。

○事務局 こちらは、いろいろ調べる中で発生した文言ですので、今委員からご指摘いただいたように、勉強意欲ではなく学習意欲の方がわかりやすいので、修正したいと思います。

○会 長 よろしいですか。他にございますか。

前回から変わったところで、いじめ防止対策として、学校の取組と教育委員会の取組と分けたということです。今、いじめに関してはメディアも騒がしくなっていますが、公開のときに反応される方がいらっしゃるかもしれません。

38ページに不登校児童・生徒の成果指標がございますが、いかがでしょうか。

よろしいですか。それでは、施策3にいきたいと思います。39ページからご覧いただいて、ご意見ください。

○委 員 45ページの成果指標で、タブレットを使用した授業の実施率が令和2年度は0%となっていますが、今年度配備されたクロームブックは昨年度なかったですが、以前から配布された40台のタブレットを使用した授業はある程度やっていると思うのですが、それを考えなくていいのかなと思ったのですが。

○会 長 0%はかなりショッキングな値ではあるのですが、今のことについていかがでしょうか。

○事務局 令和2年度以前も、1校あたり40台のタブレット端末があって、それを授業に活用していたということはわかっているのですが、統計を取っていなかったため、何%と書くのが正しいのかと困っていたところでした。例えば、推



定何%程度とみなせるという材料があれば、ご教示いただけたらありがたいのですが、そのような理由で、具体的な数値を書くことに逡巡していた状況でございました。

○会 長 令和3年度に学校に配布したものの目標値であれば、令和2年度は入れないで目標値だけでいいのであって、令和2年度0%というのは大変誤解を招きそうなので、何か改善をしていただきたいと思うのですが、どなたか何かございませんか。

○委 員 ここはやはり、正直に未調査と書いた方がいいのではないかと思います。ただ、未調査と書くと何も根拠がないのではないかなとなるので、毎年3月に全国で「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」というものがあります。記憶なので、先生がどれぐらい授業で使っているかがあるかはわかりませんが、少なくともこういったことが指導できるというタイプの調査結果はあるので、そういったものを参考になるのではないかと思います。

もう一つ書き方で、こう直した方がいいという意見は難しいのですが、授業で学年別、教科別など書くと、多くの先生は、教えるためにすごく使うんだなと思うのですが、資料を配布するとか、そういう用途で使うことも立派に授業で使ったことになりますし、むしろ今そういう使い方をすることによって、それぞれの興味に応じた資料を素早く提供できてよかったということになるので、この授業は直接的な学習指導に限らないというようなことが合意されている方が、気楽に使っていただけるのではないかと思います。

○会 長 貴重なご意見いただきましたが、成果指標の書き方や内容の見直しをしていただくということによろしいですか。他にございますか。

先ほど、コロナの感染対策の記載も追加していただいたということです。

○委 員 ぜひ教えていただきたいのですが、44ページの主な取組3-2に関係することなのですが、学校の設備について、文科省から提言も出てくるようですが、例えば体育館の施設・設備を誰が点検するのか。建てたときは、当然設計業を通して検査するのでしょうか、10年・20年たった時に、専門家の方が点検に来たという記憶がなくて、体育科の先生が目視でひびが入っているとか、雨漏りしているということはあるのですが、専門家の技術士の方が点検に来るようなことがなくていいのかな。維持管理のところに何か言葉あってもいいのではないかなと思ったのですが、もしそういうことをやっているということであれば教えていただけたらと思います。

○事務局 学校施設の維持管理ですが、建築基準法の中で法定点検が3年に一度と決まっています。そのことから、電気・消防設備、建築等を含め、点検を行う法的位置づけがある状況となっております。

○会 長 今のお話ですと、この記述の法定点検という言葉となっているということですね。各学校3年に一度、専門家の方が点検に来られているということですね。

他にございますか。

○委員 同じ44ページの3-1の2行目ですが、「子供の学びを最大限に引き出す学び」という言葉に、学びが2回繰り返されており、読んでいて違和感があります。

○会長 おっしゃる通りかと思いますが、事務局いかがですか。

○事務局 今ご指摘いただいたとおりですので、「子供の主体的な学びを最大限に引き出す教育活動を実現するため」といった言葉に修正したいと思います。

○会長 よろしいですか。他にございますか。

第5章に計画の推進と進行管理がございます。これは、基本的な考えが載っております。第6章に参考資料があります。この参考資料は、一般の市民の方が検討プランをお読みいただいたときの参考になるといった観点から確認をしていただけたらと思います。

よろしいでしょうか。それでは、言い残したことや言い忘れたことなど、細かいことでも結構ですので、ございますか。

35ページの小見出しですが、3番目「子供の健康の管理」とあるので、2番にも「子供の」を入れて、「子供の学びを確保するための経済的支援」としたらいいのではないかと感じました。ただ、施策2の大きなタイトルに「子供の」は入っていないとわかるのですが、「子供の学び」と入れた方がいい気もします。

他に何かお気づきのことがございますか。

○事務局 先ほどの施策のタイトルについてですが、総合計画と連携・整合を図っているところで、総合計画の検討も現在、佳境を迎えております。そのため、総合計画にも「子供の」が入っていないため、併せて修正できるか等検討していきたいと思っております。

○会長 総合計画とかなり言葉を合わせているということですね。他にございますか。それでは、協議会としての意見をまとめたいと思っております。

すぐにお答えをいただいた質問もあったのですが、宿題となっているご質問もあったかと思っておりますので、今日お示しいただいたものの大まかな内容は承認し、ただし、今日課題が出されたものについては、事務局で修正を加えていただくということでよろしいでしょうか。

最終的な素案は、事務局で作成していただいて、次回ここで確認をした上で答申ということになります。よろしいですか。

最後に、次第4の「その他」について、事務局から説明をしてください。

○事務局 事務局から3点ご連絡します。

①次回開催日について

②今回の会議録と資料は9月22日水曜日頃にメールで送付予定

○会長 次回が最終回ですので、今日みたいに議論をする時間はありませんので、皆様のご意見を反映して修正した箇所を網掛けなどしていただいて送ってもらえますか。データで送られてきたものを確認するというので、皆さんよろ

しいですか。

日程は、9月27日月曜日午後7時からということで、案がでましたが、みなさまご都合いかがですか。大丈夫ですか。

以上で、第7回学校教育プラン検討協議会を、閉じさせていただきます。どうもご協力ありがとうございました。

以上